

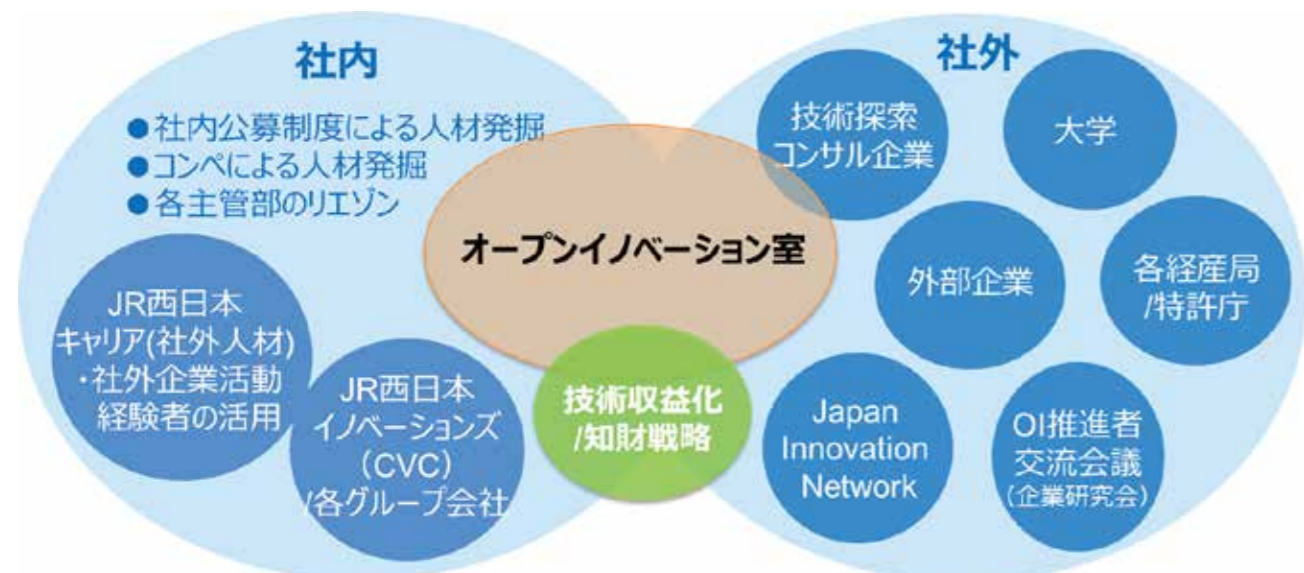
オープンイノベーションで支える 技術ビジョンの実現

2018年度に策定した「技術ビジョン」の実現に向け、当社が取り組んできたオープンイノベーション活動について紹介します。

オープンイノベーションの推進体制と取り組み

自前主義から脱却し、幅広く外部からの技術やアイデアを速やかに取り込み価値化することが必要です。また同時に、外部とのかかわりの中で当社技術・ノウハウを共有し価値を増大させることが可能な環境を獲得する必要があります。そこで、右のような取り組みを進めてきました。

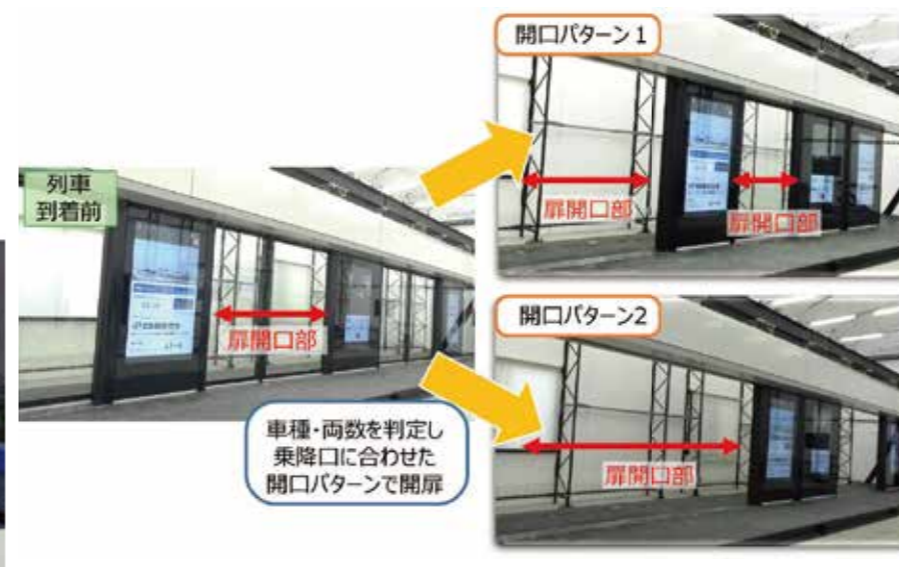
- ①外部の知見獲得とネットワークの形成
- ②社内各部門との連携強化を図るリエゾン制度の運用
- ③技術収益化・知財戦略G設置
- ④オープンイノベーションの社内啓発活動
- ⑤当社のCVCとの協業(新技術と当社事業のシナジー)



オープンイノベーション推進体制



段差解消機溝の試作機
(JR西日本テクシア 出展中)



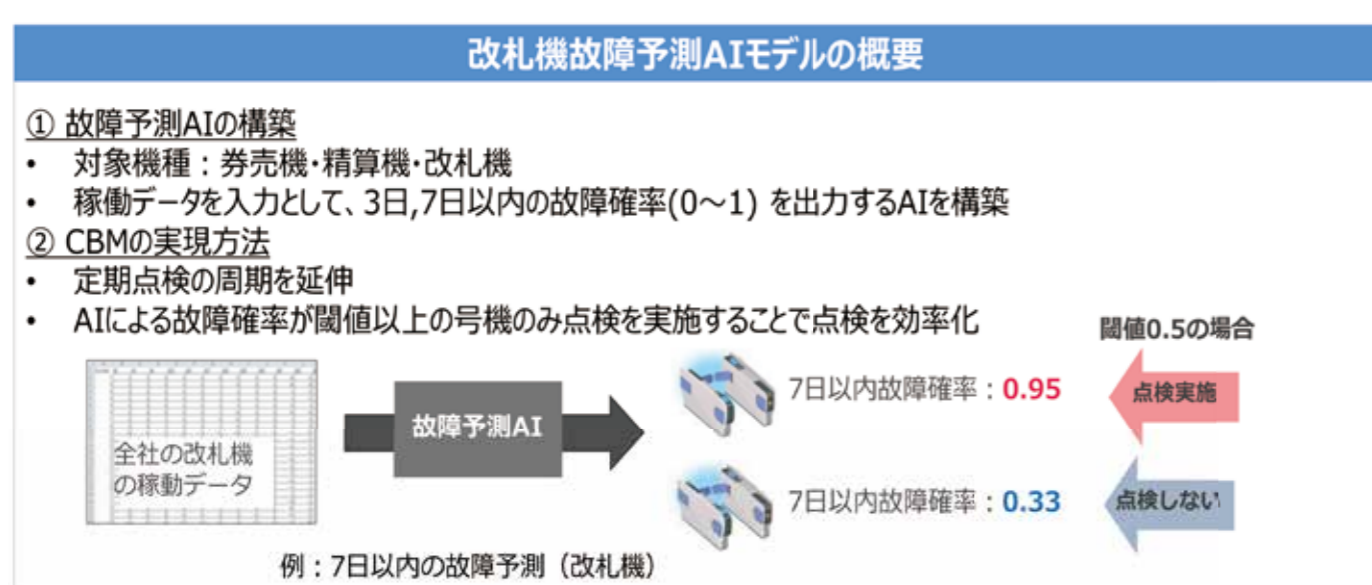
世界初のフルスクリーンホームドア
(JR西日本テクシア 出展中)



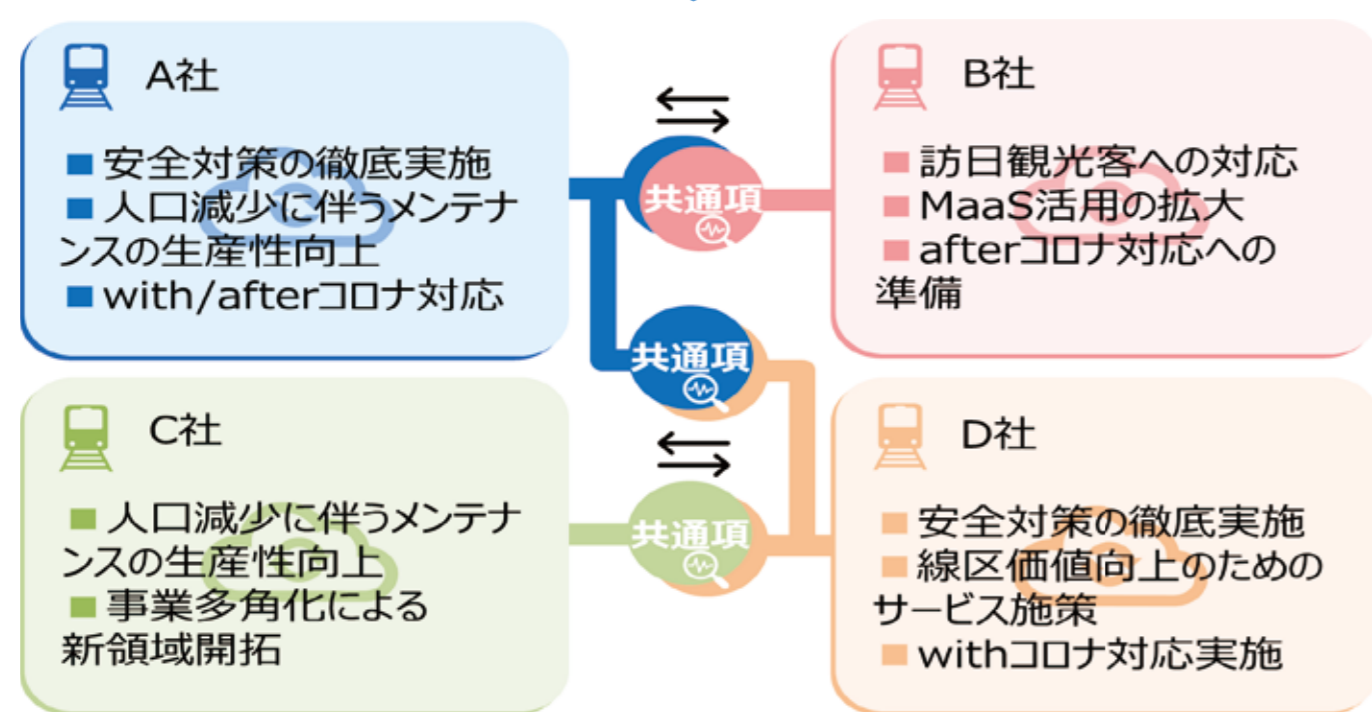
自動運転・隊列走行BRT
(JR西日本 出展中)

JR西日本グループの共創活動の加速(アウトバウンド型オープンイノベーション)

当社における課題の解決を図りつつ、その成果を広く外部展開できるように企画しています。具体的事例として、自動改札機の故障予測AIについて、幅広く鉄道業界に向けて技術内容の紹介や共同での実証実験などを進めています。今後さらに、JR西日本グループとして、事業者間での課題や技術の共有を通じた共創活動(アウトバウンド型オープンイノベーション)を加速します。



JR西日本グループが保有する
鉄道アセットを前提とした技術提供



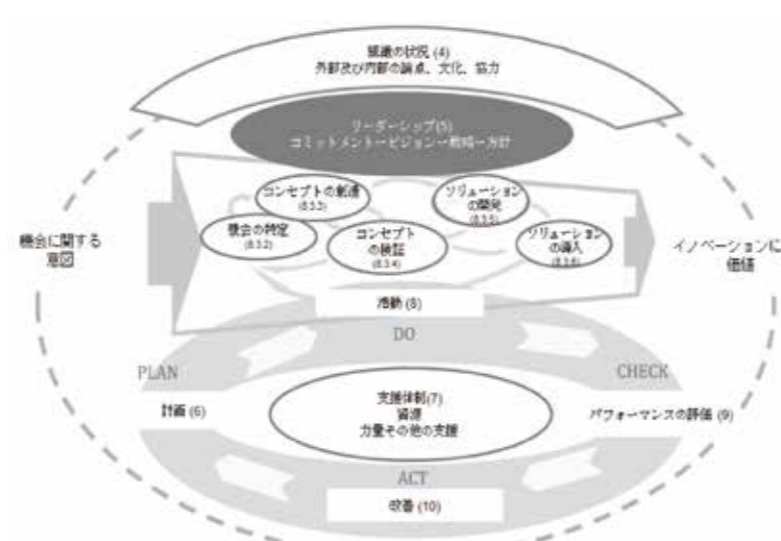
JR西日本グループの共創活動の事例
(各アイテムは各社ブースにて出展中)

イノベーション・マネジメントシステムの構築と運用

○イノベーション・マネジメントシステムのガイドンス規格である ISO56002 の考え方を適用し、社内の仕組みを構築

○ISO56002 の展開を経済産業省と連携して推進している一般社団法人 Japan Innovation Network 主催のイノベーション・マネジメントシステム・アクセラレーションプログラムへ参画

○当社の取り組みについて振り返りを自ら実施(マネジメント機能が少しずつ向上していることを確認)



イノベーション・マネジメントシステムの概要
(ISO56002 より引用)

ISO56002採点	自社自己採点(平均点)			改善度	実施事項
	2019.11	2021.3	2021.9		
4章 組織の状況	2.3	3.0	3.3	→	外部環境変化への対応、グループ会社連携
5章 リーダーシップ	2.3	2.9	3.2	→	技術ビジョン定着、中期経営計画、会見、鼎談
6章 計画	2.7	3.0	3.3	→	ポートフォリオ、CVC設立・連携、技術収益化
7章 支援体制	1.7	2.8	3.4	→	異花受粉、柔軟な予算、イノベーション拠点グループ会社との伴走、知財戦略
8章 活動	2.6	3.0	3.5	→	OIPIの整理、キャリアの仕組み、イノベーションチャレンジによる「イメージ」明確化、鉄道アセットを活用した共創活動への挑戦
9章 パフォーマンス	1.0	2.0	3.0	→	技術ビジョン振り返りとアップデート
10章 改善	1.0	2.0	3.0	→	(技術開発推進・中期経営計画での戦略検討)

当社の ISO56002 項目の自己採点

